

大阪 HITEC NEWS Vol. 5

発行／大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアム事務局

〒559-0034 大阪市住之江区南港北 2-1-10 ATC/ITM 棟 11 階

NPO 法人エコデザインネットワーク内

2009 年 12 月 8 日発行

TEL:06(6615)5272 FAX:06(6613)7890 E-mail:info@osakahitec.com URL:http://www.osakahitec.com

■理事会・企画運営委員会・総会を開催■ 活動報告や今後の活動方針を検討

「大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアム」(大阪HITEC、理事長・水野稔大阪大学名誉教授)の企画運営委員会(平成21年5月)、理事会(平成21年6月)、総会(平成21年6月)を開催し、理事会及び総会では、平成20年度事業報告・収支決算、平成21年度事業計画・予算計画、理事の再選任、会則の変更について議論し、承認されました。

「会員向けセミナー」を開催

総会後に、会員向けセミナーを開催しました。

▽日時 2009年6月5日(金) 15:15~16:45

▽会場 ドーンセンター 5階 特別会議室

▽内容

テーマ：認証制度検討委員会の経過報告について

講師：野邑 奉弘(大阪市立大学名誉教授)

テーマ：ヒートアイランドの現状、評価、素材から見た対策技術

講師：吉田 篤正(大阪府立大学大学院教授)

「ヒートアイランドに配慮したまちづくり・アイデアコンペ」を開催

ヒートアイランド現象を緩和し魅力ある都市空間を創出する空間デザインと、大阪の夏を涼しく過ごす夢あふれるユニークなアイデアを募集する「ヒートアイランドに配慮したまちづくり・アイデアコンペ」を実施しました。応募作品(都市デザイン部門17作品、技術アイデア部門14作品)の審査の結果、最優秀作品賞1作品、特別賞7作品を決定しました。

▽募集期間 2009年7月11日(水)から
8月24日(月)まで

▽審査委員

委員長 水野 稔(大阪大学名誉教授)

副委員長 増田 昇(大阪府立大学大学院教授)

委員 森山 正和(神戸大学大学院教授)

池上 俊郎(京都市立芸術大学教授)

西村 伸也(大阪市立大学大学院教授)

前中 久行(大阪府立大学大学院教授)

嘉名 光市(大阪市立大学大学院准教授)

▽審査結果

[都市デザイン部門]

最優秀作品賞 中辻 康次郎(関西大学研究生)

「オトナリから広がる風の道

～水辺に広がる界限～

道頓堀周辺の川沿いの建物の建替えの際に、隣接する建物(オトナリ)と協力し川に対して「ハの字型」の空間をつくる事によって、川の冷たい風を呼び込み、大阪湾から来る海風を市街地に導き入れる「風の道」を提案。

特別賞 荒井 庸行(榊大林組)

北田 成子

國居 郁子(神戸大学大学院生)

[技術アイデア部門]

最優秀作品賞 該当なし

特別賞 岸本 卓也(関西電力㈱)

黒田 昌孝

佐藤 勇武(634デザイン)

ファーナム クレイグ エドワード

(大阪市立大学大学院生)

▽後援法人 22 法人、協賛法人 27 法人

「第2回都市ヒートアイランド対策国際会議」を後援

技術（工学）と政策の両面から都市ヒートアイランドの緩和を検討する『第2回都市ヒートアイランド対策国際会議』（アメリカ合衆国カリフォルニア州バークレー市で開催）を後援し、大阪におけるヒートアイランド対策の取組みを紹介しました（写真は神戸大学大学院森山教授による紹介の様子）。また、希望のありました法人会員（5社）の技術シーズのPRをパンフレットの配布を通じて行いました。



▽日時 2009年9月21日（月）～9月23日（水）
 ▽会場 ダブルツリーホテル（バークレー市）
 ▽主催 ローレンスバークレー国立研究所

「おおさかATCグリーンエコプラザ」に出展

循環型社会づくりをめざす最新の環境ビジネスを広く紹介する「おおさかATCグリーンエコプラザ」に出展し、PRパネルの展示とパンフレットの配布を行いました。



▽日時 2009年10月1日（木）～28日（水）
 ▽会場 おおさかATCグリーンエコプラザ
 ▽10月の入場者数 11,754人、団体見学数 63団体

**「ヒートアイランドに配慮したまちづくり・アイデアコンペ」
 作品展・協賛法人シーズ紹介展を開催**

コンペに応募いただいた全作品を展示する作品展と、コンペ協賛法人のうち20法人による屋上の高反射率化、緑化、人工排熱低減など様々なヒートアイランド対策技術を紹介する協賛法人シーズ紹介展を開催しました。

▽日時 平成21年10月29日（木）13:00～17:00
 10月30日（金）10:00～16:00
 ▽会場 大阪歴史博物館 4階 第1研修室
 ▽来場者数 189名

**「ヒートアイランドに配慮したまちづくり・アイデアコンペ」
 表彰式・公開シンポジウムを開催**

「ヒートアイランドに配慮したまちづくり・アイデアコンペ」の表彰式と記念の公開シンポジウムを開催しました。

▽日時 平成21年10月30日（金）14:00～16:45
 ▽会場 大阪歴史博物館 4階 講堂
 ▽参加人数 132名
 ▽表彰式

受賞者への賞状、副賞の授与。受賞者による作品紹介



写真奥左から、岸本氏、黒田氏、松井氏*、山田氏*、井守氏*、荒井氏、中辻氏、佐藤氏、國居氏、エドワード氏（*の3名は荒井氏の共同制作者）
 写真手前左から、嘉名審査委員、西村審査委員、森山審査委員、水野審査委員長、増田審査副委員長、池上審査委員、前中審査委員

▽公開シンポジウム

〔講演〕

テーマ：環境省によるヒートアイランド対策の取組みについて

講師：環境省 水・大気環境局 大気生活環境室 室長補佐 鈴木 克彦

[パネルディスカッション]

テーマ「大阪のヒートアイランド対策 コンペから読み解く新しい技術やアイデアを探る」

[パネリスト]

水野 稔 (大阪大学名誉教授)
森山 正和 (神戸大学大学院教授)
池上 俊郎 (京都市立芸術大学教授)
増田 昇 (大阪府立大学大学院教授)

[コーディネーター]

岡 絵里子 (関西大学准教授)

[パネルディスカッションでの主なコメント]

- ・技術とデザインが刺激し合うことはやはり大事。
- ・対策技術だけではヒートアイランド対策が実現できず、技術を統合化して、都市空間や都市施設に落とし込むデザインが重要であり、技術とデザインの二輪車によって初めて実現していくのではないかと考える。
- ・今回のコンペでは、緑陰と風通しという2つが大きなキーになっているものが多くあると感じた。
- ・熱を軸に評価する場合、日陰や風通し、その空間を創るためのセットバックなど、単軸でなく総合的な評価が大切だと考える。
- ・建築の熱環境に従事している技術者は、建築の周辺についても、熱環境のデザインをすべき。そうすれば必然的に緑、水、風を使ってデザインするようになると思う。
- ・ヒートアイランド対策技術は既に様々な所で活用されているが、今回の提案が全て揃って連携していくのなら、大阪のヒートアイランド対策は確実に進むのではないかと考える。
- ・コンペを通じて、都市問題を解決しながらヒートアイランド対策につなげることで、地球温暖化とヒートアイランド問題に同じ枠組みの中で対応していくことが大事だと考える。
- ・コンペの成果やシンポジウムでの発言内容などを踏まえ、感じられたことなどを暖めていただき、次回のコンペには新たな提案を出していただきたいと考える。

クローズアップ 1

～「会員向けセミナー」より～

認証制度検討委員会の経過報告について

■大阪HITEC副理事長 野呂 奉弘

(認証制度検討委員会委員長、
大阪市立大学名誉教授)

●認証制度の検討について

昨年、本コンソーシアム企画運営委員会において、ヒートアイランド対策技術を評価して認証する「認証制度の在り方」を検討するための「認証制度検討委員会」が設置されました。

それぞれのワーキンググループからの意見をいただいて報告書を作成して、認証制度検討委員会の役割が終わりましたので、その経過を報告します。

認証制度に近いものが国レベルでもあります。例えば、環境省の環境技術実証事業がそれで、報告書に例示していますが、その事業内容は、申請者が実証を実証運営機関に申請すると、この機関は委託した実証機関で実証試験をし、その結果報告書を受け取り、環境省に送り報告書の承認を得て申請者に結果を送付します。重要な実証試験方法の開発は実証試験方法開発機関を設けて技術開発を行っています。また、環境省は試験結果の公表やロゴマークなどを申請者に交付しています。

この制度は、一定の判断基準を設けて、基準に対する適合性を判定する「認証」とは異なっています。すなわち、性能の良し悪しの判断は、ユーザー側に委ねられているのが特徴です。

仮に、1つの認証機関で、ある判断を与える姿勢を取った場合には、いろいろな問題がでてきますが、やはり、このコンソーシアム「HITEC」の創設趣旨と、会員企業のメリットを考えると、独自の認証制度が必要なのではないかとこの1年かけて考えてきたところです。

環境省など、既存の制度が果たす役割は重要です。また、ご存知のように「CASBEE」が制度化されています。こういった流れの中で、「メーカーの一層の技術開発の促進」さらにカスタマーの立場も考えると、やはり、基準を設けて、ヒートアイランド対策の効果について、どの程度の適合性があるのか判定する独自の認証制度が必要であるとの考えに至

りました。

この独自制度となると、HITECが大きな責任を持つ立場になります。例えば、認証の後で、商売にならなくなったのはHITECの責任と言われかねません。しかし、このようなことも考え、きっちり認証判定していくことが、使う側にも、売る側にもメリットがあることと思われしますので、独自の認証制度をぜひ制度化していきたいと委員会で決定しました。

●認証制度の基本的事項について

ではどういふことを認証制度の基本的事項として決めるのか、ということ各ワーキンググループや関係者の意見を聞いて以下のように委員会で決定しました。

(1) 「対象とする技術分野」

ヒートアイランド対策の技術分野をできる限り網羅し統一的な制度のもとで評価・認証する。

(2) 「評価項目・評価方法」

ユーザーが性能を客観的に判断できるよう、個々の技術に応じて科学的手法に基づき判断基準を適切に設定していきたいということです。

(3) 「評価基準」

①一定の基準を設け、クリアしたものを認証する。②5つ星などの「段階的な基準を設けて認証」していくのも一つの流れかと思えます。5つ星か3つ星かですが、そのような評価基準を設けるというのは、独自のやり方ですが、避けて通れないと思われまます。

(4) 「技術の評価」

評価の公平性の観点から、原則として第三者機関が実施することになります。試験結果の信頼性の観点から第三者機関を設定せざるを得ないでしょう。

この第三者機関を認定するための認定基準が必要になります。ここでは、技術の評価基準を判定するだけの能力を持った第三者機関をHITECの方で決めていく必要があるということも今後の問題になると思えます。

(5) 「認証機関」

これは公正性の観点から、HITEC内で一定独立した組織とする。「外部の有識者が参画する。」

のも一つの流れかと思えます。そして、必要に応じて、評価結果を検証するための追試験等を行い、製品の認証後、現場調査等を行うなどの権限を持つ認証機関が必要であるということです。

●認証制度の流れについて

申請者からの申請があって、認証機関は「認証制度実施要領」に基づき、技術評価をして技術の認証書を出す。技術の評価は第三者機関が行う。ここで、申請者は第三者機関が認証したデータをつけて認証機関に提出することを考えていますが、他にもいろいろな方法があると言えます。基本的には、あまり複雑でない組織にしたい。さらに、各ワーキンググループがありますから、そこから技術的な助言を受けるといふのも考えられます。

また、認証制度の実施要領、技術評価の実施要領とか、そういうものをきっちり決めていく必要があると思えます。



●中間報告に対するWGからの意見の概要と対応について

中間報告に対して各ワーキンググループからいろいろな意見が出されました。

特に、公平性とか公正性を担保するにはどうしたら良いか、また、技術を評価するモデル手法の検討などの意見が出されましたが、それらが本当に正しいのかどうかも含めて、今後検討していかなければいけません。全て、正しいか、正しくないか、これはあくまでも科学的方法でやっていくわけですが、今後もっと整理して、モデル化も含めてマニュアル化していく必要があるのではないかと思います。

●今後の検討課題について

「今後の検討課題」としては、(1)「認証制度の創

設」という事で、「関係者の意見の聴取・調整」「認証制度の創設に向けた準備（認証制度実施要領、技術評価実施要領の策定等）」などが必要になります。

(2)「ロゴマークの制定」や「CASBEE」との関係。我々このHITECでやった技術評価を「CASBEE」の方が採用とかという話になると、一つの大きな流れになるわけですから、姿勢としてはそういうような可能性も持ちたいと思っています。

(3)それから、将来は地球温暖化というものは絶対避けては通れない話ですから、CO₂削減効果の評価は入れていけるかとか、「統一した対策技術の評価に関する調査検討」という事もやっていく事が今後の課題になってくると思います。

●おわりに

この認証制度検討委員会は、企画運営委員会の中の委員会ですが、21年度には、認証制度実施要領作成のための作業委員会のような新しい委員会をスタートしてはと考えています。このことは、一応理事會でも承認いただいています。どうもありがとうございました。

クローズアップ 2

～「ヒートアイランドに配慮したまちづくり・アイデアコンペ」公開シンポジウムより～

環境省によるヒートアイランド対策の取組みについて

■環境省 水・大気環境局 大気生活環境室
室長補佐 鈴木 克彦

本日受賞された皆様、誠にありがとうございます。様々なアイデアをいただき、それを活かして関係者が連携して取り組むことは、ヒートアイランド対策を進める上で非常に重要だと思います。本日、私からは、環境省におけるヒートアイランド対策の取組みについて紹介させていただきます。

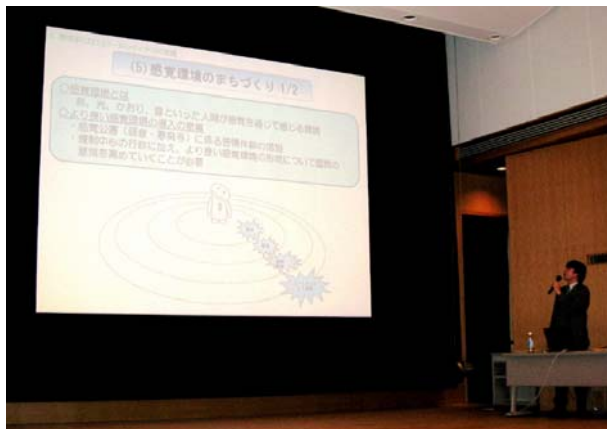
●政府全体によるヒートアイランド対策の取組

政府では、関係7府省によるヒートアイランド対策関係府省連絡会議を設置し、平成16年3月に「ヒートアイランド対策大綱」を策定しました。この大綱は、国・地方公共団体・事業者・住民などが取り組むべき基本方針を示すとともに、政府の施策を体系的に取りまとめたものであり、毎年フォローアップをしながら対策を進めています。内容としては、

4つの柱として、①人工排熱の低減、②地表面被覆の改善、③海風などを活用した都市形態の改善、④地球温暖化対策にも通じるライフスタイルの改善が掲げられているほか、ヒートアイランド現象の実態やメカニズム、対策の効果などについての調査研究も推進することとされております。

●環境省におけるクールシティづくりの取組

これを受け、環境省では大きく2つの取組を進めています。1つが「クールシティ推進事業」という調査研究事業であり、例えば、対策評価手法を確立するための一環として、都市の熱環境のモニタリングを地方公共団体と連携して進めたり、ヒートアイランド現象による様々な環境影響の定量的把握に努めたりしています。また、環境影響の中でも大きな問題となっている熱中症について、予防情報の充実に取り組んでいます。もう1つが「クールシティ中枢街区パイロット事業」であり、全国11箇所のモデル街区において、ヒートアイランド対策を集中的に行う民間事業者に対して補助金を交付し、街区全体での対策を強力に進めていただくとともに、その効果検証を行います。大阪では大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺街区を対象にしています。また、これまでの取組の成果を盛り込んだ「ヒートアイランド対策ガイドライン」の策定作業を進めており、これも近く出来上がる予定です。



●感覚環境のまちづくり

夏の暑さをなんとかしたいというだけにとどまらず、涼感を楽しむまちづくりの取組に展開するという意味で、「感覚環境のまちづくり」にも取り組んでいます。感覚環境とは、熱、光、香り、音といった人間が感覚を通じて感じる環境という意味の用語です。最近、騒音・悪臭といった感覚公害の苦情件数

が再び増える傾向にあります。また、悪臭防止法が施行された40年程前には、工場や養豚場などからの悪臭に対する苦情が大部分でしたが、今は、近所の臭いや焼鳥屋の臭いなど、苦情対象が様々になっており、特定の事業場を対象に規制するだけでは対応できなくなりつつあるのが現状です。そのため、より良い感覚環境を創ることについて人々の意識を高め、各地域で取組を進めていただくことが、結果として苦情の原因をなくしていくことにもつながると考えています。

●水・緑・風を活用した都市の再構築

涼感を楽しむ都市づくりには、水・緑・風の活用が重要な手段と考えていますが、都市の再構築を進めるに当たっては、地方公共団体や地権者、都市緑化を行っている部局など、様々な主体が協同して取り組む必要があります。具体的には、各主体が一同に会して水・緑・風を活用した都市の再構築に向けた地域のビジョンを策定し、そのビジョンを実現するための事業を各々が計画的に実施するという進め方が考えられますが、このような取組をモデル的に実施し、その成果を他地域に展開するということができないかと考えているところです。

●今後の展開

今後も引き続き調査研究を進めていきます。また、関係者の連携の下でヒートアイランド対策を推進していきます。例えば、涼感、いい香り、いい音などを活かした快適な都市づくりや、水・緑・風を活用した都市の再構築に向けた施策を、関係者の連携の下で展開することが必要と考えています。

検討部会 WGの動き

【素材関連WG】

素材関連WGでは、高反射率塗装、高反射率防水シート、保水性舗装、外断熱及び住宅屋根材の評価シートの検討等に取り組んでいます。

〈第14回会合〉

▽日時 2009年6月11日(木) 14:00～16:00

▽場所 大阪歴史博物館 4階 第1研修室

▽内容

- (1) 情報提供
- (2) 保水性舗装SWGの進捗状況について

(3) 断熱によるヒートアイランド対策について

〈第15回会合〉

▽日時 2009年8月5日(水) 15:35～17:15

▽場所 大阪府庁本館5階(東側) 共用会議室

▽内容

- (1) 外断熱SWGの設置と活動内容について
- (2) 住宅屋根のヒートアイランド対策効果に関する検討SWGの設置について
- (3) 保水性SWGの進捗状況について

〈第16回会合〉

▽日時 2009年10月26日(月) 14:40～16:30

▽場所 大阪歴史博物館 4階 第1研修室

▽内容

- (1) 保水性舗装SWGの活動報告について
- (2) 外断熱SWGの活動報告について
- (3) 住宅屋根材SWGの活動報告について
- (4) 情報提供

《2010年3月までの予定》

○第17回会合を平成21年12月11日(金)に大阪府庁新別館北館4階の多目的ホールにて熱有効活用・人工排熱低減WGと合同で開催(午後2時～4時)し、「第2回都市ヒートアイランド対策国際会議」の情報を提供する。OWGの会合としては、3月までに、さらに1回程度開催予定。

【熱有効活用・人工排熱低減WG】

熱有効活用・人工排熱低減WGでは、都市内の人工排熱処理とその利活用、設備的対策技術情報に係るデータベースの検討に取り組んでいます。

〈第17回会合〉

▽日時 2009年5月13日(水) 13:30～15:30

▽場所 大阪市立大学 工学部G棟 302号室

▽内容

- (1) 20年度事業報告
- (2) 21年度にWGで取り組むテーマについて
- (3) 設備的対策技術情報データベースについて
- (4) 海水への人工排熱処理サブWGの検討状況報告

〈第1回講演会〉

▽日時 2009年11月20日(金) 14:30~16:30

▽場所 キャンパスポート大阪 ルームE

▽内容

(1)講演

「都市における未利用エネルギー活用地域冷暖房ネットワーク事業ーパリ市等欧米における地域冷暖房ネットワーク事例紹介ー」

早稲田大学理工学術院理工学研究所 中嶋浩三

(2)報告

「既往の調査研究から見た大阪の人工排熱実態と排熱利用上の課題」

大阪市立大学大学院工学研究科 中尾正喜

《2010年3月までの予定》

○第18回会合を、平成21年12月11日(金)に素材関連WGと合同で開催。

OWGの会合としては、3月までに、さらに1回程度開催予定。

【クールスポット創造技術手法WG】

クールスポット創造技術手法WGでは、緑化技術に関する評価項目等の検討、また、水を活用した技術の検討に取り組んでいます。

本年度は、水を活用した道路を冷ます技術についてサブワーキンググループを設置し、公募により採用した2社の技術について8月中旬から10月上旬にかけて技術の効果検証などを実施しました。

また、緑化による温度低減効果を把握するための簡易蒸発散評価装置の開発に取り組んでいます。

《2010年3月までの予定》

○効果検証の結果や簡易蒸発散評価装置の開発状況などについてワーキンググループ会合を開催し報告する。(1月7日(水)開催予定)

○簡易蒸発散評価装置の開発を進める。

【熱負荷評価手法WG】

熱負荷評価手法WGでは、面的開発・建築などの大気熱負荷削減量計算法の検討、対策技術の熱負荷削減性能データベース構造の検討に取り組んでい

ます。

〈第5回会合:大気熱負荷簡易評価モデル報告会〉

▽日時 2009年10月16日(金) 14:00~16:00

▽場所 ホテルプリムローズ大阪3階高砂(東)

▽内容

大気熱負荷簡易評価モデルの解説、デモ

《2010年3月までの予定》

○大気熱負荷簡易評価モデルの試用事例に関するワークショップを開催予定

【都市デザインWG】

都市デザインWGでは、ヒートアイランドに配慮したまちづくりのアイデアの提案を求めるコンペを実施するなど、ヒートアイランドに配慮した都市デザインの検討に取り組んでいます。

〈第4回コンペ検討委員会〉

▽日時 2009年9月3日(木) 13:00~16:00

▽場所 ATC/ITM棟 大阪グリーンエコプラザ内

▽内容

(1)審査委員会の進め方について

(2)表彰式・公開シンポジウムの進め方について

〈コンペ審査委員会〉

▽日時 2009年9月10日(木) 10:00~15:00

▽場所 大阪歴史博物館 2階 第1会議室

▽内容

応募作品 31 作品を地域特性の考慮、対策技術の総合性、デザイン性、波及効果等の観点から総合的に審査し、受賞作品を選考。

《2010年3月までの予定》

○第5回コンペ検討委員会を開催予定。

コンペの検証及び今後の取組みについて検討
OWGの会合としては、3月に開催予定。

【認証制度作業委員会】

野邑副理事長を委員長とする「認証制度作業委員会」では「認証制度実施要領(案)」の作成作業を行っています。

コンソーシアムの会員種類・年会費

- 法人会員（議決権1口につき5票） 50,000 円／1 口
- 個人会員（議決権1口につき1票）
 - ・企業に勤務する個人 10,000 円／1 口
 - ・大学、試験研究機関、行政機関、公的機関に勤務する個人 5,000 円／1 口
 - ・学生 1,000 円／1 口
- オブザーバー（議決権なし）
 - ・行政機関

※会員の皆様へ

年会費は、当該年度の4月末までにお納めいただくことといたしておりますので、22年度もご対応方、よろしくお願いいたします。

（納付確認後に総会のご案内をいたします。）

また、年会費納付のご案内の際に、毎年、会員のご連絡先（担当者）について、ご確認をさせていただいておりますので、ご協力のほど、重ねてお願いいたします。

※大阪HITECは随時会員募集を行っています。

詳細な入会案内については、大阪HITECのホームページをご覧ください。

→ <http://www.osakahitec.com>

◆◆◆大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアムの構成メンバー◆◆◆

【法人】（46社）アーキヤマデ(株)、有光工業(株)、株いけうち、株エスシーエイエヌ、エヌシー産業(有)、応用技術(株)、大阪ガス(株)、株大林組、株神清、株環境総合テクノス、関西電力(株)、クボタ松下電工外装(株)、株シーエムシー、遮熱性舗装技術研究会、城見住研(株)、住友ゴム工業(株)、石州瓦工業組合、全国PCがわら組合連合会、外断熱懇話会、NPO 法人外断熱推進会議、太平洋プレコン工業(株)、太陽セメント工業(株)、ダイキンエアテクノ(株)、ダイキン工業(株)、大高商会(株)、大日化成(株)、大日本塗料(株)、株竹中工務店、筒中シート防水(株)、鶴賀電機(株)、株鶴弥、東邦レオ(株)、都市環境緑化研究会、戸田工業(株)、日鉄住金鋼板(株)、日本気象(株)、日本興業(株)、日本特殊塗料(株)、日本ペイント(株)、野安製瓦(株)、発泡プラスチック外張断熱協会、株フッコー、株マツオコーポレーション、ユニソングループ、株淀川製鋼所、ロンシール工業(株)

※下線のある法人は、平成21年度新規法人会員（16社）です。 (50音順)

【個人】（23名）水野稔、野邑奉弘、森山正和、池上俊郎 ほか19名

【大学】大阪大学、大阪府立大学、大阪市立大学、神戸大学、京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、和歌山大学、関西大学

【行政等】経済産業省近畿経済産業局、国土交通省近畿地方整備局、大阪管区气象台、環境省近畿地方環境事務所、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構関西支部、大阪府、大阪市、堺市、豊中市、枚方市、東大阪市、箕面市、財団法人大阪府みどり公社、大阪府土地改良事業団連合会

【NPO・NGO】NPO法人エコデザインネットワーク（大阪HITEC事務局）、財団法人オイスカ関西総支部

（平成21年12月8日現在）